

研究部会 活動報告書（2024年度）

研究部会の名称

ごみ文化・歴史研究部会

研究部会の活動目的

ごみ処理は地域の人口集中状況や経済状況、衛生状態、社会情勢に合わせて行われており、ごみ処理により社会情勢、文化、経済状況などに影響を与えている。その状況を説明することで廃棄物処理を理解、研究する。

研究部会の設置期間 年のうち、今年度は 年目

当該年度の活動実績

活動実績を冊子体などにまとめている場合は、それを提出してください。
そうでない場合は、以下に活動実績を記述してください。

- ① 年次研究発表会における企画セッション設定の有無 ☒ 有 ☐ 無) ←どちらかに○
（「有」の場合 ⇒ 企画セッション名とその概要と総括）

企画セッション名：「屎尿処理の歴史から「近代」を問い直す」

セッションの概要と総括：

◎古澤部会長より過去の講演会を振り返り

・2018年 三重大学名誉教授 小川真里子氏：19世紀イギリス帝国における公衆衛生史を論じた著書「病原菌と国家：ヴィクトリア時代の衛生・科学・政治」名古屋大学出版会、2016」の中から、ロンドンの下水道整備や屎尿有効利用をめぐる論争を中心に講演。

・2023年 日本学術振興会特別研究員 増木優衣氏

「ヴァールミーキはどこへ行けばよいのか：現代インドの清掃人カースト差別と公衆衛生の民族誌」春風社、2023。」からラージャスターン州の清掃人カースト、ヴァールミーキに着目した文化人類学の研究について講演。

◎琉球大学教授 星野高德氏より「日本における屎尿処理の近現代史～汲取から下水処理へ～」の講演

2024年1月に出版した「屎尿処理の近代史」という本の内容に沿って、東京、大阪、名古屋において、都市化による衛生環境の悪化に直面する中、屎尿処理というものはいかに変容してきたのか、そして屎尿主体が民間から行政に変化し、各都市が屎尿の肥料化と下水処理技術の導入を模索した過程をたどる内容について講演いただいた。

◎福岡大学名誉教授 松藤氏

しくじり研究事例（研究の失敗談・顛末）として、「下水と違うバイ！」ー埋立地浸出水処理への挑戦、「金に目がくらむと、山が動く！」の2つの事例を紹介いただいた。

② 研究部会独自の活動について

◎海外セミナーの実施

日時:2024年12月5日 16:00～20:00 場所:現地(BRAC University)及びWEB会議
バングラデシュBRAC大学にて「バングラデシュ廃棄物セミナー」を開催。ダッカ市民、大学生、国及びダッカ市職員、地方都市職員が参加。現地参加・オンライン参加を合わせて360名が参加した。日本の関係者の出席者は、現地出席は研究部会石井氏(東洋大学)、JICAバングラデシュ事務所の大澤氏が参加。大澤氏よりJICAの取り組みに関して講演。日本からはWEBで15名が参加。

【講演プログラム】

・廃棄物処理プロジェクトのレバレッジポイントについて (石井明男氏)

※開会前の日本側に向けての紹介

- 1.開会の挨拶 BRAC大学
- 2.JICAによる支援と廃棄物処理マネジメントの発展について(JICA 大澤氏)
- 3.セミナーの目的について(Mr. Shoriful Alam)
4. ダッカ市の廃棄物処理プロジェクトの進展について(Dhaka North City Corporation)
5. 南チッタゴンの廃棄物処理プロジェクトについて
6. 都市開発プロジェクトの廃棄物処理プロジェクトについて
7. 廃棄物処理プロジェクトの将来ビジョンについて
8. 意見交換

◎学会誌への寄稿

・月刊誌「都市と廃棄物」への記事執筆:2024年4月号～毎月 ダッカ市廃棄物処理について 石井明男氏